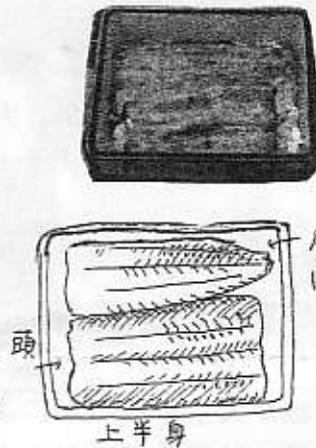


1、うなぎ・・・何処へ行ったのか???



小生、鰻が好きである。子供のころは捕まえることに懸命で、折戸湾から清見寺浜や興津川まで工夫を凝らして遊んで廻ったが、今回は喰う話である。

鰻と言えば「うな井」「うな重」。これまで何百杯頂いたか勘定が出来るはずもないが、一度たりとも裏切られたことはない。

江戸は浅草「ヤツメウナギ」、箱根湧水の三島うなぎ。安倍川伏流水の静岡。大井川の島田や吉田。浜松では音楽でお世話になる度に御馳走になり、西は九州柳川・福岡。韓国では、音楽人たちが接待して呉れた「キムチ」で食べる「ソウルうな蒲」等々。今でもその時々霧意気が思い出せそうに思われる。

拙宅のあった鳥坂の『寿福亭』は、豪勢・豪快・美味・低廉なうなぎを提供しており、我が家では月に一度は出前してもらうことが定例化していた。親父さんの「こだわり」で「うな重・大」では一匹半がドンと乗って、収まり切れぬうなぎがはみ出していた。

こちらへ来て2年以上うなぎに巡り合わない。拙宅から少し離れた所に「うなぎ」の看板があるが、上品そうな料亭であり、向こう鉢巻きの親父さんが洪紙を張った大きなウチワを「パタパタ」と叩いて旨そうな匂いを撒き散らし「ニイちゃん！金がねえなら匂いだけでも嗅いで行きな！」と大声で煽る静岡の店とは大きく違っている。

奈良南部に「うなぎ提供」店があると聞き、遠路を遠しとせず出掛けてみたが、出て来た料理にびっくり！ いろいろと椀や小皿が並んだが、肝心のうなぎはいとも慎ましく小さく控えているだけで・・・マック参った参った驚イク。

一年も食べないと体が疼き、二年では干からびる。以前『まむし』（真蒸し）と呼ばれて「さすが大阪」と唸らせた道頓堀にも江戸風が見当たらず、近代的なビルのレストラン街では、ウィンドウ内の白飯上に澄ました顔のうなぎがいるばかり。大阪案内本によれば「うなぎは関東では庶民の食べ物。関西では金満家の懐石料理」だそうだ。ナルホド。

2、二上山と笛



私にとっての「山」は『富士山』だが、こちらで心癒されるのは「二上山」。「ふたかみやま」とか「ニジョウザン」と呼ばれているらしい。

我が家の上空、大阪方面へ航空機がゆっくり通るが、その下が生駒山で日本平に似た山。

続く南の目立つ二瘤の山が二上山(515m・474m)。独立峰に見えるが、大阪へ続く山並みの一つで休火山。貴重なサヌカイトなどが採取されるという。

邪馬台・大和・飛鳥・奈良時代。庶民は税と苦役で苦しみ、貴人たちは血みどろな政争に明け暮れた。とりわけ大君(天皇)の死は騒乱で、次ぎに誰が天皇になるかによって生死が逆転する。風見鶏では身の破滅だから、天皇の亡骸を前にして大声で哭きながら周囲を伺って暗闘を展開させる。

哭く仕草は重要で、大勢で泣くのを哭臨(くりん)と言うが、大和の哭きは代用があり、その一つが『挽歌(ばんか)』である。亡き人のことを歌にして

唱えるもので、この作歌に優れていた柿本人麻呂は出自不明者ながら、その作歌の素晴らしさから万葉集などに記録されて後世に名を残したのであろう。

奈良南部・葛城市、近鉄新庄駅の裏の『柿本神社』の祭りを「チンボンカンボン祭」というそうだ。打楽器音のようだし、柿本人麻呂の墓もあることなので、細かいことを聞きたいと思い、すぐ近くの葛城市役所へ行ったが「人麻呂についての文学的な質問なら人を紹介できるが、音楽的なことは判らない」とのこと。

「哭き」や「挽歌」に代わる手段が『笛』である。

古代の日本の笛は「出土品」もなく詳細不明だが、世界の例に倣えば、身近な管状のもの(葦・竹・動物の骨)に息を吹き付けて鳴らし、短管で横吹きと縦吹きがあったはずである。指穴がない時代だから旋律は吹かず、鋭い音で哭き声に代えていたであろう。この笛吹きたちの居住地が二上山南方の葛城山の東麓一帯らしい。

大王や貴族の墓は大和の東西南北各地にあるが、仏教思想と共に西方に浄土があると考え、都の飛鳥から二上山を西へ越えた辺りが墳墓となり、ここを「近ツ飛鳥」という。

ここには敏達帝陵を皮切りに多くの天皇陵が並び、聖徳太子墓や小野妹子墓もあるし、その先に「仁徳天皇陵」もある。飛鳥の笛吹きたちは葬列に付き添い、悲しみの音を響かせながら、夜間に山を越えたのであろうか。(昭和天皇の葬儀に従事した人の話では、真っ暗な宮殿の廻りに配置された楽人が、楽譜も無い曲を絶え絶えに吹いたという。)



松本敬子さん提供の写真

3、音楽があるから元気

5/12

静岡大学教育学部で音楽を専攻した者の2年に1度の懇親会に参加してきた。午前9時から始まり、午後3時までの6時間。遅刻も早退も自由で、個人都合が可能だが、70歳過ぎの者にはかなりの体力が必要な懇親会である。

最初の1時間は自由交流与演奏準備。続く2時間が演奏発表で今回は20組が発表した。独唱・ピアノ・バイオリン・リコーダー・コカリナ等の独奏や重奏さらに舞踊など。内容が様々なのは当然として、積み重ねて来た年輪模様が面白かった。

配布資料に欠席者の近況報告と参加者の一言メッセージがあり、発表された音楽の裏打ちもされているように思えるので、その幾つかを匿名で掲げてみる。

A(欠席) 腰痛悪化歩行困難だが、ハーモニカ大合奏でラデッキ行進曲に取り組んでいる。

☆ 彼はリコーダーでも優秀な指導者で、優れた作品が県制定の教則本にある。

B(欠席) ダーク・ダックスごっこを始め、外国人との合奏も活発にしている。

C = 40年育成した少年少女合唱団を解散し、生涯教育に転身。☆彼は学生時代から駄洒落の好きな愉快な男だったが、本日も演奏会の中に聞かせる即興演奏・簡単な歌を用いての身体運動等、ユーモア溢れる素晴らしい指導者ぶりである。和顔愛語。

D = ☆ 大学時代、ショパンをパラパラっと弾き、エチュードに悪戦苦闘している我ら先輩を「アッ」と言わせた男。相変わらずの達人ぶりで皆さんの伴奏に大活躍。

E = 悪性腫瘍で2月入院・3月退院。☆ そんな彼がサンタ・ルチアを原語で独唱。脱帽！

F = 80歳になりました。☆ その彼が「アマリリ・ミアベル」を原語独唱。敬礼！

G = 胸椎圧迫骨折でコルセット生活 ☆彼女が披露したドビッシューの「夢」は 加齢の絶品。

H & I = ☆ご夫婦で「コカリナの公認講師」不自由な楽器が生み出す絶妙の音楽。

午後は食事と懇談だったが、なかなか休ませてくれず、学生時代に上演したオペラの復活抜粋演奏も、懐かしの合唱名曲の再演も全員参加。音楽づくめで午後3時に再会を約して解散した。皆さん体力あるね。オレは来年参加できるかな??

夏



◎ササユリ 6月下旬



◎オオナンバンギセル 7月下旬～8月



◎ナツツバキ 7月頃



◎ヤマユリ 7月頃



ヤマアジサイ 7月頃



カワラナデシコ 8月～9月頃



◎アジグレンノ 8月15～6日

奈良の俳句と川柳

平城七代 皇陵巡り春惜しむ
 花万朶 西行堂の静まり
 七重八重 山吹色の中宮寺
 宮跡で 古代を偲ぶ鷹の狩り
 竜田川 曲がれば花も曲がりおり
 業平の健脚道をドライブす
 三代目 継ぐと決めたる春田打つ
 池の上 一閃ありて 夏燕
 夜神楽や 天狗降り来る杉木立
 若葉萌え 万葉人に成りかわる
 啓蟄の 昼を知らせる寺の鐘
 夏に入る影を濃くして 北円堂

五月 銭湯会話

いつもの温泉名主と馴染み客の会話

- 「オッチャン、ええ湯やろがア？
 オッチャン、男前にならはったデェ」
- na「オッチャン、オッチャン言うな！
 ワイはまーんだ若いンじゃけーに」
- 「コラ済まなんだ。ほならニイチャン
 今お幾つ？」na「やっと70ヤ」(爆笑)

